



会長 高橋利光
幹事 山田正
会報 鈴木彦太 及川勝永
 後藤益美 森田峯男
例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2629回例会 2018. 1. 18 No.27

本日の出席率

・本日の出席率 80.3%

ニコニコボックス

- ・高橋利光会長 布施孝之会員のスピーチに期待して。
- ・佐藤静市会員 布施孝之会員のためになるスピーチ楽しみに聞かせていただきます。先々週1月誕生祝いを戴き有難うございました。不肖、私も1月20日にて満73歳となります。今後共宜しく願っています。
- ・阿部泰彦会員 布施孝之会員のスピーチ楽しみに！登米市出身の相楽希美東北経済産業局長のご活躍と東北の産業経済の発展に期待して！宮城県警察本部内海刑事部長より、佐藤昌市君に刑事部長感謝状を戴きました。
- ・布施孝之会員 本日、スピーチの当番です。お付き合い下さい。
- ・鈴木彦太会員 布施孝之会員、本日の素晴らしいナイスピーチ、大いなるご期待を申し上げます。楽しみです。
- ・飯塚仁哉会員 ユーモアを交えた巧みな話術で、人を引きつける布施孝之会員のスピーチ、楽しみにしています。
- ・佐藤幸一会員 布施孝之会員のスピーチにご期待いたします。
- ・江川元徳会員 布施孝之会員、いつもみんなのためになるスピーチ、ありがとう。
- ・菅野幸一郎会員 布施孝之会員のスピーチに期待いたします。
- ・森田峯男会員 布施孝之会員のスピーチに期待して。
- ・山田正幹事以下 布施孝之会員のスピーチに期待。
 八谷郁夫会員 佐々木崇会員 佐藤敬喜会員
 千葉吉男会員 氏家良典会員 山田直志会員
 佐竹孝行会員 遠藤光則会員 猪股育夫会員

佐々木源悦会員 岩淵正彦会員 熊谷敏明会員
 布施孝尚会員 菅原慶一会員 小野寺伸浩会員
 富士原裕子会員 武川毅会員 岩淵栄市会員
 佐藤早智子会員 及川富男会員 大畑好司会員
 千葉正宏会員 関孝会員
 以上、ありがとうございました。

会長要件 高橋利光会長

先日R I より「国際ロータリーの決議審議会の決定結果」の日本語版がメールで送られてきました。決議審議会は、各地区からの代議員で構成されており、クラブや地区などから提出された決議案について、毎年オンラインで投票を行うのだそうです。決議審議会で採択されたものは、すべてR I 理事会に提出され審議されます。要するに、決議審議会の役割は、R I 理事会の議題の選出ということになります。今回の決議審議会には、38件提出され17件が採択されました。そのうち日本のロータリークラブから提出された議題は9件あります。この数字からみますと、日本のロータリークラブが実に活発に行動しているか、そしてロータリーを真摯に捉え熟考しているかがうかがえます。その中で興味深い決議案をご紹介します。日本の第284地区から提出されたもので「ロータリーの人頭分担金を増額しないことを検討すること」です。提出理由は「2016年規定審議会にてR I 理事会より提出された制定案16-99は、当初（立法案集では）人頭分担金を年1ドルずつ増加する提案であった。しかし、審議当日急遽修正され毎年4ドルずつ増額する、と大幅な増額が採択された。そのために、各ロータリークラブではその対応に苦慮しているのが現状である」というものです。クラブの収支に直結する問題ですので、今後の推移を注意して見守る必要があるかと思えます。正直なところ、私は不勉強のため、決議審議会なるものの存在

や規定審議会の決定までのシステムが良くわかりませんでした。ロータリーは細部にわたりシステム化されているのだなあと思いました。

幹事報告 山田正幹事

- ・ガバナー事務所より
 ロータリー・リーダーシップ研究会パートⅢの案内
 日時 2月17日(土) 8:30~16:30
 会場 仙台迎賓館 斉苑
 参加費 2,500円
- ・登米市総務部より
 登米市感謝状贈呈式の案内
 日時 1月25日(木) 午後4時~
 場所 迫庁舎 3階 第3委員会室
- ・登米市環境市民会議より
 第9回人と野生動植物の共生を考えるつどいの案内
 日時 1月27日(土) 午後1時30分~
 会場 宝江ふれあいセンター 多目的ホール

各委員会報告

- ・環境保全委員会 (山田直志委員長)
 「第9回人と野生動植物の共生を考えるつどい」に参加希望者は、1月22日までにご連絡下さい。
- ・親睦活動委員会 (大畑好司委員長)
 次週の例会は「新年移動例会」のため、若鯨会館、午後6時30分より開催致します。お間違いのないようお願いいたします。

今週のスピーチ

「さよならだけが人生さ」 布施孝之会員
 長い自分の人生経験の中で、出会いの数と別れの数と同じです。ただ出会いは、たまたま出会ったといいますが偶然に出会ったということもありますが、別れは、必然なんです。佐沼ロータリークラブの会員は50数名いらっしゃいますが、必ず別れます。1人抜け2人抜け、30年~40年後にはこの顔ぶれが揃っていないことはありません。人生は出会いと別れの連続です。別れについては歌にもみられます。近江敏郎の歌「別れの磯千鳥」の冒頭に「会うは別れの始めとは…」会った途端にもう既に別れが始まっているという文言があります。松尾和子の歌「誰よりも君を愛す」に「愛した時から苦しみが始まり、愛された時から別れが待っている」愛された時からもう既に別れが始まっている。続くのは「ああ…それでもなおお命かけて誰よりも誰よりも君を愛す」です。また、神戸一郎の「別れたっていいじゃないか」という歌があります。「別れたっていいじゃないか、……花も散るし、小鳥も死ぬのさ」ということで、やはり別れの歌です。挨拶辞典の中に仏事の弔辞の文例集があります。その辞典に出てくるのが「生者必滅」です。これは仏教の大涅槃経に出てくる言葉ですが、生きているものは必ず滅びる運命にある。それに続いて「会者定離」これは平家物語に出てきます、「生者必滅と会者定離は浮世のならひにて候」とあります。最近の仏事では、

この文言を使う弔辞はあまり聞かないようですが、「大涅槃経」では、生きているものは必ず滅びる、そわっているものは別れる定めにあるということであります。

本日のテーマであります「さよならだけが人生さ」と言ったのは、小説家の井伏鱒二です。彼は文化勲章も受け、芥川賞選考委員もされた方です。芥川賞、文学賞が創設されたのは昭和10年で、文芸文春の社長だった作家の菊池寛らによって設けられました。若手作家の発掘と出版界を盛り上げようということで設定された文学賞です。芥川賞は芥川龍之介を冠にした文学賞で純文学が対象です。直木賞は、直木三十五という作家の冠にした賞で大衆文学が対象です。「さよならだけが人生さ」には、もともと原本があります。古代の中国の漢詩を、井伏鱒二の独得のユーモアとエスプリを利かせた翻訳と言いますか、その漢詩からヒントを得て語ったのが「さよならだけが人生さ」であります。実は、この上にもう一つ本文があって「花に嵐のたとえがあるぞ、さよならだけが人生さ」。きれいに咲いてる花、みんなに愛されている花も、嵐がくれば一瞬にして散ってしまう、息堪えてしまう、そういうたとえがあるように、我々の人生もさよならの運命にあるということです。あと2ヶ月位すると、そろそろ南の方から桜の便りが聞こえてまいります。各地方のお花見の風景がテレビ等で映し出されますが、何年か前に東京上野公園のお花見会場にテレビカメラが行って、サラリーマンの一人と思われる所にカメラを向けますと、若いサラリーマンがカメラに向かってさけぶのですね。「散る桜、残る桜も、散る桜」と。この句は、米沢藩士、維新の志士の辞世の句です。「俺は今散って行くけれども、あたりに居るお前達もいずれ間もなくおなじ定めで散って行く身だよ」という皮肉を込めた歌であります。なかなか味のある歌ですので、皆さんも覚えておいていただきたいと思えます。

現在、世界にいくつの言語があると思えますか。世界中に今2,000を超す言語があります。その中で、日本語ほど、一つの事に対して表現・ボキャブラリーが豊富な言語はないのではないかと私は思っています。一つの事象に対していろんな表現があると思えます。その一つに人生の終焉、つまり、死に対しての表現が、実に多いと私は何十年も前から、おっと思いがながらそのつど見たり、聞いたり、読んだりしたものの中から書き出してみました。死、没、死去、死没、逝去、永眠、他界、落命、昇天、往生、成仏、帰天、生天、召天、帰幽、神化、遷化、入寂、天寂、入滅、寂滅。表現として、鬼籍に入る、不帰の客となる、彼岸に旅立つ、黄泉に入る、幽明境を異にす、天国に行く、仏になる、目を落す、土に還る、冥土に行く、永遠の別れ、泉下の客となる、天寿を全う、極楽浄土に行く、息を引きとる、三途の川を渡る、往生の素懐を遂げる。

— 以下、紙面の都合上割愛させていただきます。